

第22回 日・韓・中ジュニア交流競技会 報告書



日 時：2014年 8月 23日～29日
場 所：日本 岩手県
盛岡市立太田スポーツセンター

役員 団長 内藤 美明（全国高等学校体育連盟テニス専門部副部長）
男子監督 岩佐 敏郎（全国高等学校体育連盟テニス専門部常任委員）
女子監督 平良 和己（沖縄尚学高等学校）

選手 男子 前崎 直哉（関西） 齋藤 和哉（東海大菅生）
安上 昂志（柳川） 古賀 大貴（大分舞鶴）

女子 上 唯希（園田学園） 大矢 希（名経大高蔵）
原口 紗絵（湘南工大附） リュー理沙マリー（沖縄尚学）





団長 内藤 美明

全国高等学校体育連盟テニス専門部副部長

第22回日・韓・中ジュニア交流競技会は、2回目の参加となります。前回は、男子監督として参加させて頂き、男子・女子共に優勝させて頂きました。今回は、団長として参加させて頂き、優勝を目指して、8月2日に選手全員を会場となる岩手県太田スポーツセンターに集合してもらって、1泊2日の強化合宿を行い、大会に臨みました。チームとしてのコミュニケーションを図るため、宿舎も男子4人1部屋、女子4人も1部屋で、日本で行う、海外遠征・国際試合にチーム Japan として戦うという意識を持ってもらいました。韓国チーム、・中国チーム共に今年は、ITF ランキングの上位者を連れて来ていたので、非常に厳しい戦いになるということで、男子・女子監督と共にオーダー及び作戦を練りに練って試合に臨みました。

初日の韓国戦で、男子はシングルス No.1 安上が勝利して、良いスタートを切ったのですが、シングルス No.2 古賀が 6-7、6-7 と 2 セット共タイブレークで負けてしまいました。シングルス No.3 斎藤は、セットオール後の 10 ポイントタイブレーク、9-6 のマットポイントから 9-11 の逆転負け、No.4 前崎もファーストダウン後のセカンドセットをタイブレークで落とし、ダブルスもタイブレークで落として、結局タイブレークにもつれた試合を 5 セット落としたため、1-4 で負けてしまいました。

女子もシングルス No.3 原口がファイナルセットの 10 ポイントタイブレークを落とし、2 勝 2 敗で勝負の掛かったダブルスの上・大矢もファイナルセットの 10 ポイントタイブレークを 15-17 で落として、2-3 で負けてしまいました。結局、男子・女子合わせて 7 セットのタイブレークを全て、落としてしまいました。

その日のミーティングで、男・女のキャプテンが「明日の地元に勝って 1 勝 1 敗にして、多分、中国が 1 番強いと思うけど、最終日の中国戦に勝って 2 勝 1 敗で得失点差に持ち込もう。」と落ち込んでいた選手達を奮い立たせてくれました。

2 日目の女子の戦いは、昨日のミーティングで話した通り、5 試合で 3 ゲームしか落とさないという、素晴らしい内容の試合でした。男子も 5-0 で勝ち、その日のミーティングで「明日の最終戦をチーム Japan としてベストを尽くそう。」と男・女のキャプテンを中心と/or まつっていました。

最終日の中国戦、男・女共に 2 面進行で行われた試合。監督がベンチで選手にアドバイス。監督の入っていない方の試合のベンチ。男子の試合に女子が、女子の試合に男子が、男・女のキャプテンの指示で入っての総力戦。男子・女子が 1 つになってのチーム Japan としての戦いでした。

男子は、シングルス No.1 斎藤が快勝しましたが、タイブレークにもつれた 2 試合を落としてしまって、1-4 で負けてしまい、1 勝 2 敗で 3 位でした。女子は、シングルス No.1 が負けましたが、残りのシングルス 3 試合に勝って、2 勝 1 敗が確定しました。最終試合のダブルスに勝てば、得失点差で優勝、負ければ 2 位。男子の選手達も全員応援に参加して、優勝決定戦が行われましたが、惜しくも 6-8 で競り負けて 2 位でした。

男・女共に優勝は逃したもの、チーム Japan として素晴らしい試合を展開してくれました。選手達は、今回のこの経験を今後のテニス人生に生かしてもらいたいと思います。そして、男子監督をして頂いた岩佐先生、女子監督をして頂いた平良先生、短い時間でチームをまとめてチーム Japan として素晴らしい試合、見ている者を感動させる試合を演じて頂き、ありがとうございました。

最後に、大会運営をして頂いた岩手県高体連テニス専門部の先生方と補助員の高校生達、日本体育協会の役員の皆様に感謝申し上げます。



男子監督 岩佐敏郎

全国高等学校体育連盟テニス専門部常任委員

1. 競技結果について

- 1) 対韓国戦 1-4で敗退 (8月25日)
シングルスNo.1の安上昂志(柳川高校)が唯一の1勝をあげる。
- 2) 対岩手戦 5-0で勝利 (8月26日)
岩手県チームとの実力差は歴然で、圧勝となった。
- 3) 対中国戦 1-4で敗退 (8月27日)
シングルスNo.1の斎藤和哉(東海大菅生高校)が唯一の1勝をあげる。

韓国並びに中国選手の身体能力の高さに圧倒された結果となった。特に印象的だったことは、韓国選手が自分のミスに腹を立てた(所謂、キレてしまう)後、プレーが雑になるのではなく、かえって集中力を増してポイントを取りにくる姿であった。

外国人とのプレー経験が殆どない日本選手は、試合の前半は萎縮してしまい、後半になってやっと自分のパフォーマンスができるようになる、といった状況であった。ただ、中には互角のプレーを展開できる場面もあり、経験値の差が実力以上の差になって現れたようである。換言すれば、韓国・中国の選手が最初から自己主張できるのに対して、日本の選手は後半にならないとそれができない。試合結果の詳細を見てもらえば分かるのだが、1stセットをあっさり落とした後、2ndセットは結構競っているのである。

2. 運営・競技日程について

- 1) 開催が日・韓・中3カ国の持ち回りで、しかも会場が固定していないため、開催県の運営準備が十分ではない、ということは否めない。何しろすべてが初体験なのだから、担当各位の心労はいかばかりかと推察される。参加する選手・役員も含めて、開催地と共にこの大会を作り上げていくのだ、という意識が必要なことだと痛感した。但し、競技補助員を務めてくれた岩手県の高校生諸君にとってジュニアトップのプレーを間近で見られたことは、貴重な経験であり、今後の飛躍への刺激になったと確信している。
- 2) 開催日程については、今後是非とも検討していただきたい。大会日程が平日の月曜日から水曜日まででは、会場に一般の観客が来場することは稀である。実際今大会も一般の観客は殆ど見受けられなかった。加えて広報不足も否定できない。国際大会の開催が、地域社会を含めて殆ど一部の関係者にしか周知されていない。今後は、主催者である日本体育協会が音頭をとって、マスコミを巻き込んだ広報活動を切に希望するものである。

3. 雑感

末席ながらテニス界に関わるようになって四半世紀、今回の経験は実に貴重なものとなりました。今後は、この経験を少しでも高校生の指導に生かしていくたいと考えております。上述した自己主張の差異は、大陸の人間(韓国・中国)と長らく鎖国体制で生きてきた島国の人間のDNAの違いかもしれない、などと考えたりもしています。

今回の機会を与えていただいた日本体育協会をはじめ、お世話になった多くの方々に感謝申し上げます。



女子監督 平良 和己

沖縄尚学高等学校

第22回日・韓・中ジュニア交流競技会に女子監督として参加させて頂きました。日本代表監督という貴重な体験をさせていただいた全国高体連、日本体育協会の役員の方々には感謝申し上げます。

23日に盛岡駅へ集合し、午後から盛岡市大田スポーツセンターテニスコートにて2時間ほど練習しました。私の思った以上に選手同士は早く打ち解けており、雰囲気も良くスタートすることができました。練習の様子や雰囲気をみて、前年度、参加経験のある上唯希（園田学園）をキャプテンに決めました。その日のミーティングでチームの目標、チームで行動するのに必要な規律等を確認しスタートしました。

24日には他の種目の日本選手団とも合流し、JAPANのユニフォームを渡された時には日本の代表だという意識を強くし選手達の顔つきも変わりました。

25日、初戦は韓国戦でした。韓国は粘り強さにパワーのある印象を受けました。シングルスNo.1、海外での経験も豊富な大矢希（名経大高蔵）で挑みましたが、初戦の緊張もあったのか思い通りの試合運びができず4-6、5-7。No.2の上唯希（園田学園）が得意のフォアハンドで攻め、6-3、6-4で勝利。No.3の原口沙絵（湘南工大付）は善戦したものの、勝負どころで取りきれず、5-7、6-1（3-10）で負け。No.4のリュー理沙マリー（沖縄尚学）は格下で少し実力差のあった相手に快勝してシングルス4試合を終えて2対2になり、勝敗はダブルス勝負になりました。起用するメンバーに迷いはなく、ダブルスでインターハイ優勝の大矢希（名経大高蔵）と、全日本ジュニア優勝の上唯希（園田学園）で戦い、出だしから息の合ったプレーで6-1、5-2と韓国ペアを圧倒していました。ところが、そこから韓国ペアの気迫のこもった反撃にあい、ファイナルセットスーパータイブレイク 15-17で負けてしまい、2-3で韓国に敗れました。

26日、昨日の悔しさを晴らすかのように、地元岩手県代表に全体で3ゲームしか与えず、5-0の快勝。中国は韓国に勝って2勝目を上げました。

27日、少し消極的のところが出てしまった韓国戦の敗戦から、中国戦は勝負どころの大事なポイントを積極的に攻めていこうと前夜のチームミーティングで話しました。その結果、No.1の原口沙絵（湘南工大付）は惜しくも負けてしまいましたが、No.2大矢希（名経大高蔵）、No.3の上唯希（園田学園）、No.4のリュー理沙マリー（沖縄尚学）の3試合で勝利し、3-1。残り試合のダブルスは8ゲームとなり6-8で負けてしまいましたが、対戦成績3-2で中国に勝利しました。

結果は日本、韓国、中国が2勝1敗という結果で並びました。初戦の韓国戦が悔やまれますが、キャプテン上唯希（園田学園）を中心に選手は本当に全力でプレーし頑張ってくれたと思います。また、試合以外でもチームとして、また一選手としての意識、行動は素晴らしいものがあり、私自身も勉強させられました。最後になりますが、準備運営をしていただいた岩手県テニス協会、岩手県高体連の先生方やボールパーソンをやって頂いた高校生、それ以外のお世話いただいた方々のおかげで素晴らしい大会を経験させて頂きました。お礼申し上げます。それから、この4人を指導し育ててこられた先生方あるいは指導者の方々の指導力に頭が下がる思いです。本当にありがとうございました。



男子キャプテン



前崎 直哉

関西高校

第2回日韓中ジュニア交流競技会に参加させて頂きました。

代表に選考して頂いたとき自分が代表でいいのかという不安でいっぱいでしたが、選考して頂いた先生方に感謝の気持ちを持って頑張ろうと思いました。

日韓中ジュニア交流競技会では、韓国・中国の選手達の体格の良さ、そしてその体格を活かしたサーブにびっくりしました。日本人がなかなか世界で勝てない理由もなんとなく分かりました。そのサーブに対して何とか突破口を開こうとしましたが、セットを奪取するまでには至らず敗戦てしまいました。自分は、韓国・中国の選手から1勝もすることができますに悔しい思いをしました。試合後に女子キャプテンの上さんに「声援には応えてくれるけれど、期待には応えてくれなかつた。」と言われました。そして、自分は声援にも期待にも応えられる選手になろうと思いました。

今回の遠征は、日本のトップレベルの選手ばかりのチームで自分にとってとても刺激のある遠征になりました。そして、日本代表チームの男子キャプテンをさせて頂き、改めてチームをまとめる大切さや難しさなどを知りました。日の丸を背負ってプレーすることが出来、素晴らしい経験をさせて頂くことが出来ました。

このような経験をさせて頂いた日本体育協会、全国高体連テニス専門部の皆さま、監督をして頂いた先生方、一緒に戦ってくれたチームのメンバーに本当に感謝しています。

ありがとうございました。



古賀 大貴

大分舞鶴高校

初めに、第22回日韓中ジュニア交流競技会に参加させて頂きました。僕は今まで学校や県、九州の代表として戦ったことはありましたが、今回のように日本の代表として戦うのは初めてでした。とても不安な気持ちと緊張で胸が一杯でしたが、いざ試合に入ると緊張やプレッシャーを楽しむことが出来、充実した試合をすることが出来たと思います。

まず初日は韓国戦でした。韓国の選手達は僕達に比べて体格が一回り大きく、打ってくるボールも力強かったので、打ち合うのではなく左右に振り回して自分から先に仕掛けていくことを心がけて試合をしました。試合の中では所々良い所もありファーストセット、セカンドセット共にタイブレークまでもつれました。しかし、大事な勝負所でのサービスやショットの選択が僕よりも相手の方が上手でした。結果的に2つともタイブレークを落とすというとても悔しい負け方をしてしまいました。

2日目の岩手戦では、前日の悪かった所を意識して試合に入りました。試合ではブレークしなければいけない大事な所でしっかりとブレークすることが出来たので良かったと思います。

3日目は、中国戦でした。中国の選手は、身長を活かしてサービスでどんどん攻めてくる選手だったので、きっちりと自分のサービスキープをすることを意識して望み、試合でも上手くいったのですが、韓国戦と同様にタイブレークをものにすることが出来ず、悔しい負け方をしてしまいました。

最終的に日本チームの結果は、3位でした。負けた試合のほとんどがタイブレークやフルセットだったので、悔いの残る結果となってしまいました。しかし、皆それが試合の中で良いプレーがたくさんあり、チームの雰囲気もとても良く最高のチームだったと思います。このチームで戦えたことを僕は誇りに思います。僕自身としては、今回見つかった課題を克服できるようにこれからも日々練習に励んでいきます。

最後に引率して頂いた先生方、大会を運営して頂いた大会関係者の皆さん、補助員の皆さん本当にありがとうございました。



斎藤 和哉

東海大菅生高校

今回は「第 22 回 日・韓・中ジュニア交流競技会」に参加させていただきありがとうございました。

インターハイ、全日本ジュニアと大きな大会の後で、疲れが残っていましたが、1 日目と 2 日目とすごく良い環境で、普段練習できないメンバーと質の高い練習ができ、少しずつ疲れも取れ調子も上がっていきました。

初日の韓国との対戦は、1 セット目は相手もミスが早く取れましたが、2 セット目からは相手のミスが少なくなり、初めての場所で日本代表というプレッシャーもあり、ファイナルで負けてしまい、悔いの残る試合になりました。2 日目の地元の岩手との対戦は前日のファイナルまでいった疲れもあり、序盤は相手に攻められていましたが、途中からは自分のテニスをすることができ、なんとか勝つことができました。3 日目の中国との対戦は前日に自分たちより格上の相手というのを聞いていたので、かなり緊張しましたが、同時に楽しみでもあり、早く戦いたいと思っていました。その精神が良かったのか、かなり調子が良く勝つことができました。

日本チームの結果は、1 勝 2 敗で 3 位という悔しい結果になってしましましたが、自分の実力をなんとか出すことができ、チームメイトと一緒に戦えたので良かったです。

今回の遠征では、先生方や地元の方々にサポートしていただき、テニスに集中できる環境を作っていただけたので、すごく充実した遠征になりました。また、日本代表として、韓国、中国のトップレベルの選手たちと戦わせて頂き、球質や球の速さ、戦術など日本との違いを感じました。自分がせっかく組み立てて追い込んでも一発で決められてしまったり、相手にサービスエースを何本も取られたりしたので、トレーニングをして筋力をつけたり、ショットの精度を上げていかないといけないと思いました。たくさんの経験と課題を見つけることができたので、今後に活かしたいと思います。

最後になりましたが、引率してくださった先生方、地元の方々や今回の遠征に関わってくださった方々、日本チームのみなさん、貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。



安上 昴志

柳川高校

まず初めに、今回このような滅多に経験できない海外選手との交流の機会を作つて頂いた方々に感謝したいと思います。

僕が今回の日韓中ジュニア交流競技会で感じたことは、1番に「海外選手と対等に戦うにはどうしたら良いか?」ということです。まずフィジカル的なアドバンテージが相手にはあるので、そこをどのようにして乗り越えるかが重要になると感じました。最終日に対戦した中国の選手は、身長が190cmを越える長身の選手で、サービスの威力は今までに感じたことのないぐらい強力なものでした。試合中に色々と試行錯誤し、どうにか攻略しようと試みましたが、相手のコートに返すのが精一杯でした。リーチも長く、なかなか自分の打ったボールがエースにならず、我慢を強いられる試合でした。このような相手との試合は、日本では少ないので貴重な体験となりました。あの強力なサービスに対抗するためには、瞬発力やリターン力をもっと向上させる必要があると感じました。

そして、今回の遠征でメンタル的に強くなれた自分がいたと感じています。今まで、接戦になった時に消極的になって、プレーに迷いが出てしまう自分がいました。しかし、今回の試合は相手が実力的にも体格的にも格上に感じていたので、競り合つた場面でも強気な思い切りのいいプレーができたと思います。これをきっかけに、たとえ相手が同等の相手でも格下の相手でも競り合つた時こそ思い切りのいいプレーにつなげることができるようになりました。

日本代表としてチーム戦をプレーすることは、普段の試合と違つてとても緊張感のある試合でした。TEAM JAPANのプライドを胸に男女関係なく応援し合つたり、ベンチに入つたり、仲間の応援と共に一戦一戦試合出来たことに喜びを感じています。また、試合以外の場でも他の競技の選手達ともコミュニケーションをとることが出来たので、とても充実した日々を送ることが出来ました。

最後になりましたが、本大会を主催して頂いた日本体育協会、日本テニス協会並びに岩手県実行委員会、他関係者の皆様と、引率して頂いた内藤先生、岩佐先生、平良先生、そして共に戦つたチームメイト7人に感謝したいと思います。ありがとうございました!



女子キャプテン

上 唯希

園田学園高校

まず初めに、日韓中ジュニア交流競技会メンバーに選考して頂き有難うございました。

私は去年も選考して頂き二回目の遠征だったので、遠征前に緊張や戸惑いはなく楽しみの方が大きかったのですが、普段一緒の時間を共にすることのない選手や先生方と一緒に弱同じ環境で過ごし、チームとして戦うことはとても新鮮で、充実していました。

初日の8月23日、盛岡駅で監督・選手が集合した時は、皆ぎこちない雰囲気で控えめでした。皆と仲良くなれるか不安の中スタートした合宿でしたが、練習の時にコートに立ってからの選手たちは皆和気あいあいとしていて、試合に向けて良いチームワークができ、また会場となった太田テニスコートはオムニコートで海外にはない日本特有のコートだったので、日本人選手にとって違和感はなく、良い調整ができました。女子監督の平良先生に、一戦目となる韓国戦は大矢さんと私がダブルスに出る方向でいると言われ、実践形式で練習してみると、初めて組んだ感じはせず、息が合い本番が楽しみでした。

迎えた韓国戦。二面進行でシングルス1～シングルス4、最後にダブルスという順で試合が行われました。私のシングルスの試合では、韓国選手はオムニコートに慣れていない様子でしたので、終始リードされる場面もありましたが、リラックスしてプレーができ勝つことができました。大矢さんと組んだダブルスには2-2で回ってきたので、私たちが勝てば日本チームが勝利だったのですが、6-1.5-2とあと1ゲームに追い込んでいたのにも関わらず、相手が開き直りの強さで打ってきて、ファイナルスーパータイブレークの15-17で負けてしまい悔しかったです。

二戦目は地元の岩手と対戦し、最終日は去年惜敗している中国との対戦でした。去年は私のシングルスに勝敗がかかって負けてしまったので、今年は絶対にチームの勝利に貢献したいと思っていただけに少し力んでしまいましたが、なんとか勝つことができました。ダブルスではまた惜しくも負けてしまいましたが、中国戦には結果として3-2で勝つことができたので良かったです。最終成績としては、得失点差で中国に負け2位は残念でした。

今回のメンバーは本当に全員の仲が良く、男子が女子のベンチコーチに入ったりコート外から応援する監督・選手の姿勢はずっとチームを組んでいるようでした。コートに立っている時、「日本チーム全員で戦っているんだ」と思えて皆の応援が力になりましたし、11人のこのメンバーで戦えたことを誇りに思います。

海外選手と試合をして感じたことは、体格やパワーに差があっても互角に戦えるということです。今回の経験を今後に生かしていきたいと思います。

最後になりましたが、今大会を開催するにあたりサポートして下さった、大会関係者、高体連テニス部、引率して下さった先生、選手、本当に有難うございました。



リュー理沙マリー

沖縄尚学高校

今回私は、第22回日韓中ジュニア交流競技会に日本代表として出場させて頂きました。日本代表の選考の対象となった第36回全国選抜高校テニス大会で上位に入った4名が選ばれます。そこで選ばれた日本でトップの選手達と練習や試合をチームとしてすることが出来ました。

韓国代表、地元岩手県代表、中国代表の順で試合を行いました。初日に韓国代表と対戦しました。スタートは、シングルスを2試合落としてしまうという悪い流れで始まりました。私は、シングルス4だったのでその直後に試合に入りました。私が勝って、その後シングルス3も勝ったので2対2でダブルスに勝敗がかかりました。男子選手達は、その日早めに試合が終わっていたので、日本代表チーム全員で女子の応援をしました。その時、男子の選手ともだんだん仲良くなっていました。しかし、ダブルスが惜しくも負けてしまい、韓国代表に負けてしました。

次の日は地元岩手県代表との試合でした。男子も女子も全勝することが出来ました。この1勝でまた一段と仲良くなり、日本代表チームが団結して次の日、中国代表との試合にいどむことが出来ました。

中国代表との試合では、シングルス4で出場させて頂きました。シングルス3勝1敗で、最終戦のダブルスを日本代表チーム全員で応援しました。しかし、ダブルスは負けてしまいましたが、全員が団結して応援できたことはとても良かったと思います。

結果は、女子は中国代表に勝って準優勝。男子は3位で終わりました。日本代表全員、最初はぎくしゃくしていましたが、最後にはチーム一丸となって応援しました。また、フレンドシップ交流会などで打ち解けることが出来て、とても充実していて楽しかったです。

今回は、このように海外の選手と対戦させて頂くというすごく良い経験をさせて頂きありがとうございました。このような機会を与えて頂いた日本体育協会、高体連テニス専門部の皆様に感謝致します。これからも世界で活躍することを目指して頑張ります。



原口 沙絵

湘南工科大附属高校

まず初めに、第22回日韓中ジュニア交流競技会の選手に選んで頂き、ありがとうございました。

今回は、地元日本での開催のため、昨年より短い5泊6日の遠征期間でした。短い期間でも、思ったより他のメンバーと仲良くなれて、とても良い経験になりました。

日本代表という緊張はあまりなく、この遠征でたくさんの事を吸収して帰りたい、という楽しみな気持ちの方が大きかったです。ただ、遠征初日は、全国トップレベルのメンバーと一緒に練習する時に緊張して、あまり良いプレーが出来ませんでした。

初戦の韓国戦では、ファーストセット5-7で落とし、そのセットは6回40-40になりました。6回のうち私がゲームを取れたのは、1回だけでした。あと1本がなかなか取れませんでした。第2セットは6-1で取れたものの、スーパータイブレークを落として負けてしまいました。この試合で「ここ1本」という場面で取り切る重要さ、そして気持ちの整理、ストロークの安定さが大事だということを実感しました。

最終日の中国戦は、ファーストセットを必死でくらいついていきましたが、完敗。この試合では、ストロークの安定性とコントロール力が足りないことを実感しました。負けた韓国戦、中国戦でも自信がついた所もあります。それは、自分の得意なショットならどの選手にも通用することです。今後も得意なショットをさらに強化し、自分で見つけた課題を練習で少しづつクリアしていくようにしたいと思います。私は負けはしましたが、最終日の中国戦は最後まで盛り上がり、チームとして勝利出来たことは、とても楽しい良い思い出となりました。

最後に、私がこのような経験が出来たのは、高校のメンバーのおかげです。それから、引率して頂いた先生方、大会を運営して頂いた大会関係者の方々、補助員の皆さん、そして今回一緒に戦ってくれた日本代表メンバー、本当にありがとうございました。



大矢 希

名経大高蔵高校

この度は、第22回日韓中ジュニア交流競技会に選考して頂き、ありがとうございました。

私にとって全国のトップ選手達と過ごした5日間は、とても良い刺激になりました。試合会場での事前合宿が4人1部屋だったので、チームの皆とすぐに打ち解け、とても良い雰囲気で試合に臨むことが出来ました。

試合は、3セットノーアドバンテージ。ファイナルセットは、10ポイントのスーパーイブレーク方式で行われました。

そして、初日は韓国代表チームと対戦しました。私は、シングルス・ダブルス共に出場させて頂きました。シングルスでは、初日ということで緊張もあり、上手く自分のプレーが出来ずに負けてしまいました。ダブルスでは、ファーストセット6-1アップ、セカンドセット5-2から挽回されて、ファイナルセットのスーパーイブレーク15-17で負けてしまいました。5-4の40-30マッチポイントで私がダブルフォールトをしてしまい、ノーアドバンテージで取られてしまったことが1番の敗因だと思っています。私たちのダブルスが勝てば、日本代表チームの勝利だったのでとても悔しい思いをしました。

2日目は岩手県代表チーム、最終日は中国代表チームと対戦しました。中国戦では、シングルスとダブルスに出場させて頂きました。中国戦の前、皆で絶対に勝とうと気合いを入れて試合に臨みました。シングルスでは、今大会で1番自分の力を発揮することが出来、ストレートで勝つことが出来ました。3勝1敗で勝敗が決まっているため、ダブルスは8ゲームでの試合でした。このダブルスに勝てば、勝ち点で日本代表チームが優勝するという試合でした。しかし、あと一歩のところで負けてしまい、日本代表チームは総合成績で第2位という結果に終わりました。今回の試合で多くの課題も見つかりました。この経験を活かしてこれからも頑張ります。

最後になりましたが、日本体育協会、高体連テニス専門部の皆様、引率をして頂いた先生方、そして一緒に戦ってくれたメンバーに感謝しています。本当にありがとうございました。

第22回 日・韓・中ジュニア交流競技会 岩手大会 テニス競技 記録

男子(MEN)

	日本(Japan)	韓国(Korea)	中国(China)	岩手(Iwate)	勝敗	順位
日本 (Japan)		S 2 - 0 S 0 - 2 S 1 - 2 S 0 - 2 D 0 - 1	S 2 - 0 S 0 - 2 S 0 - 2 S 0 - 2 D 0 - 1	S 2 - 0 S 2 - 0 S 2 - 0 S 2 - 0 D 1 - 0	1勝2敗	3
韓国 (Korea)	S 0 - 2 S 2 - 0 S 1 - 2 S 2 - 0 D 1 - 0		S 0 - 2 S 2 - 0 S 2 - 1 S 1 - 2 D 0 - 2	S 2 - 0 S 2 - 0 S 2 - 0 S 2 - 0 D 1 - 0	2勝1敗	2
中国 (China)	S 0 - 2 S 2 - 0 S 2 - 0 S 2 - 0 D 1 - 0	S 2 - 0 S 0 - 2 S 1 - 2 S 2 - 1 D 2 - 0		S 2 - 0 S 2 - 0 S 2 - 0 S 2 - 0 D 1 - 0	3勝0敗	1
岩手 (Iwate)	S 0 - 2 S 0 - 2 S 0 - 2 S 0 - 2 D 0 - 1	S 0 - 2 S 0 - 2 S 0 - 2 S 0 - 2 D 0 - 1	S 0 - 2 S 0 - 2 S 0 - 2 S 0 - 2 D 0 - 1		0勝3敗	4

女子(WOMEN)

	日本(Japan)	韓国(Korea)	中国(China)	岩手(Iwate)	勝敗	順位
日本 (Japan)		S 0 - 2 S 2 - 0 S 1 - 2 S 2 - 0 D 1 - 2	S 0 - 2 S 2 - 0 S 2 - 1 S 2 - 0 D 0 - 1	S 2 - 0 S 2 - 0 S 2 - 0 S 2 - 0 D 1 - 0	2勝1敗	2
韓国 (Korea)	S 2 - 0 S 0 - 2 S 2 - 1 S 0 - 2 D 2 - 1		S 0 - 2 S 0 - 2 S 2 - 0 S 0 - 2 D 0 - 1	S 2 - 0 S 2 - 0 S 2 - 0 S 2 - 0 D 1 - 0	2勝1敗	3
中国 (China)	S 2 - 0 S 0 - 2 S 1 - 2 S 0 - 2 D 1 - 0	S 2 - 0 S 2 - 0 S 0 - 2 S 2 - 0 D 1 - 0		S 2 - 0 S 2 - 0 S 2 - 0 S 2 - 0 D 1 - 0	2勝1敗	1
岩手 (Iwate)	S 0 - 2 S 0 - 2 S 0 - 2 S 0 - 2 D 0 - 1	S 0 - 2 S 0 - 2 S 0 - 2 S 0 - 2 D 0 - 1	S 0 - 2 S 0 - 2 S 0 - 2 S 0 - 2 D 0 - 1		0勝3敗	4

勝敗が同数(日本、韓国、中国)になったので個人の勝敗により順位を決定

第22回 日・韓・中ジュニア交流競技会 岩手大会 テニス競技 記録

第1日 8月25日(月)

男子(MEN)	日本(Japan)	1 VS 4	韓国(Krea)
シングルス1	安上 昇志	2-0(6-3,6-2)	KWON SOON WOO
シングルス2	古賀 大貴	0-2(6-7(3),6-7(1))	SHIN SAN HUI
シングルス3	斎藤 和哉	1-2(6-2,4-6,9-11)	LEE MIN HYUN
シングルス4	前崎 直哉	0-2(2-6,6-7(3))	SHIN GEON JU
ダブルス	安上 昇志	0-1(8-9(4))	KWON SOON WOO
	古賀 大貴		LEE MIN HYUN

女子(WOMEN)	日本(Japan)	2 VS 3	韓国(Krea)
シングルス1	大矢 希	0-2(4-6,5-7)	AHN YU JIN
シングルス2	上 唯希	2-0(6-3,6-4)	SIM SOL HEE
シングルス3	原口 沙絵	1-2(5-7,6-1,3-10)	CHOI SU YEON
シングルス4	リュー理沙マリー	2-0(6-0,6-2)	NAM HYE RIN
ダブルス	安上 昇志	1-2(6-1,5-7,15-17)	AHN YU JIN
	古賀 大貴		CHOI SU YEON

第22回 日・韓・中ジュニア交流競技会 岩手大会 テニス競技 記録

第2日 8月26日(火)

男子(MEN)	日本(Japan)	5 VS 0	岩手(Iwate)
シングルス1	安上 昇志	2-0(6-0,6-1)	佐藤 光希
シングルス2	前崎 直哉	2-0(6-2,6-3)	藤島 航
シングルス3	斎藤 和哉	2-0(7-6(4),6-2)	本多 映好
シングルス4	古賀 大貴	2-0(6-4,6-3)	本多 好渡
ダブルス	安上 昇志	1-0(8-4)	佐藤 光希
	古賀 大貴		藤島 航

女子(WOMEN)	日本(Japan)	5 VS 0	岩手(Iwate)
シングルス1	リュー理沙マリー	2-0(6-0,6-1)	坂本 理紗
シングルス2	原口 沙絵	2-0(6-0,6-0)	福原 聖子
シングルス3	大矢 希	2-0(6-0,6-0)	立花 さくら
シングルス4	上 唯希	2-0(6-0,6-0)	鳥羽 有紀
ダブルス	リュー理沙マリー	1-0(8-2)	坂本 理紗
	原口 沙絵		福原 聖子

第22回 日・韓・中ジュニア交流競技会 岩手大会 テニス競技 記録

第3日 8月27日(水)

男子(MEN)	日本(Japan)	1 VS 4	中国(China)
シングルス1	齋藤 和哉	2-0(6-1,6-2)	Qiu Zhuoyang
シングルス2	前崎 直哉	0-2(1-6,5-7)	Zhong Suhao
シングルス3	古賀 大貴	0-2(4-6,6-7(5))	Te Rigele
シングルス4	安上 昇志	0-2(6-7(5),6-7(2))	Wang Aoran
ダブルス	前崎 直哉	0-1(3-8)	Qiu Zhuoyang
	安上 昇志		Te Rigele

女子(WOMEN)	日本(Japan)	3 VS 2	韓国(Krea)
シングルス1	原口 沙絵	0-2(3-6,0-6)	You Xiaodi
シングルス2	大矢 希	2-0(6-2,6-3)	Gao Xinyu
シングルス3	上 唯希	2-1(6-2,2-6,10-7)	Li Yihong
シングルス4	リュー理沙マリー	2-0(6-4,6-4)	Kang Jiaqi
ダブルス	大矢 希	0-1(6-8)	You Xiaodi
	上 唯希		Li Yihong